



神奈川県歯科医師国民健康保険組合理事長 小澤 孜

新年のご挨拶

新年おめでとうございます。平成25年の年頭にあたり、被保険者の皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年10月、ノーベル生理学・医学賞を京都大学教授山中伸弥氏が受賞されました。将来さらに研究が進めば、機能しなくなった臓器を、自己細胞由来のiPS細胞で作った臓器に置き換えられるという画期的な業績に対しての受賞でありました。

社会保障制度に関わる分野では、民主党、自民党、公明党三党などの合意で、社会保障と税一体改革関連八法案が成立し、「社会保障制度改革国民会議」で今後のことを議論することになっておりますが、委員の人選を含めて平成25年に入ってから始まる模様であります。

本組合の財政問題でありまして、24年度上半期において、保険給付費が対前年度11%増で、中でも入院と高額療養費が約30%増となっております。このままの状況で経緯し

ますと、財源不足のおそれがあります。厚労省の国保組合関連の25年度概算要求ではこれまで通りの定率32%補助が維持されておりますが、医療費の伸びがこのまま続きますと、来年度は平成3年度以来値上げしていかない保険料について検討する必要があります。平成25年度からの第2期「国民の健康づくり計画」(健康日本21)の基本方針では、健康で長生きする「健康寿命」を延ばすことを目標としており、本組合も特定健診・保健指導の実施率向上を目指してまいります。

平成25年の年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昭和という文字が、名残りを惜しむかのように、未だに身近に散見される中、平成もいつの間にか四半世紀最後の年を迎えることになりました。「平成」は時の内閣官房長官小渕恵三が、「内平らかに外成る」と発表した年号ですが、残念ながら今日に至るまで内外ともに平和で穏やかな日々を過ごしてきた年はありませんでした。昨年末に衆議院解散、総選挙、そして新政権誕生というめまぐるしい展開をみせた我が国は、今年もまた波乱含みのスタートを切ることになったようです。本会福祉共済制度を補完する立場で会員の皆様のトータ



神奈川県歯科医師信用組合理事長 後藤哲哉

年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。平成25年の初春を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

あり、協同組織金融機関は非営利・相互扶助の理念のもと、業域や地域に根差し、きめ細やかな金融サービスを提供することに徹しております。

業界並びに歯科業界も非常に厳しい状況が継続しておりますが、このような時こそ協同組織金融機関としての当組合の理念である「相互扶助」の精神を堅持しつつ、足元が揺るがぬように安全・安心を確保に推し進め先生方のご要望にお答えしていく所存でございます。

平素から組合員並びに会員の皆様にはご支援とご協力を頂き、役員一同心から感謝申し上げます。

日本には信用組合、信用金庫、労働金庫、農協、漁協、といった協同組織金融機関があり、協同組織金融機関は非営利・相互扶助の理念のもと、業域や地域に根差し、きめ細やかな金融サービスを提供することに徹しております。

最後に、本年も変わらず、関係各位のご支援と協力を賜りますようお願い申し上げます。みなさまのご多幸とご健勝を祈願し、初春のご挨拶とさせていただきます。



株式会社神歯信栄サービス代表取締役社長 西野一紘

新年を迎えて

ルライフをサポートしてまいりました弊社は、昨年は地震保険の加入促進をお手伝いし、所得補償保険においては本会のご協力を仰ぎながら精神病担保特約を一律に付帯して皆様の補償範囲を拡大してまいりました。本年もまたより一層の充実を図り会員の皆様の負託にこたえるべく努力していく所存であります。

我が国の置かれた内憂外患の状況の中で、損保、生保業界もまた厳しい現実と苦戦を強いられています。選択を迫られているTTPPの決着次第では一段と強い外圧に晒されようとしています。年金制度と共に生活の不安を軽減するための制度のひとつであるさまざまな保険という仕組みも、社会全体の歯車が正常に噛み合っており、その意味でも今年こそ国民全体が安心して将来を委ねることのできる強い政権の誕生が待ち望まれるところでもあります。皆様にとって幸多き一年になりますことを心から祈念申し上げます。